



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 22 号

2024 年 12 月 24 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2024冬休みわくわく算数教室」 初日 ～子どもを認める～

12月24日（火）、「2024冬休みわくわく算数教室」が始まりました。連日ニュースでインフルエンザの流行が報道されています。当初の予定から何人が児童の欠席者が出た関係で、朝は少しパタパタしました。担当する子どもや学年が急遽変わったSPさんも何人かいましたが、みんな快く「大丈夫です！」と言って柔軟に対応してくれました。こうして快く対応してくれる、対応できる学生さんばかりなのも驚きます。初日を無事に“いつも通り”乗り切れたのはみなさんのおかげです。ありがとうございました。

小学校は、昨日が終業式で子どもたちは今日から冬休み。「家でゆっくりしていたいな」「遊びたいな」と思う子も多いと思うのですが、わく算には子どもたちが元気に笑顔でやってきます。それは、SPさんたちがいてくれるからでしょう。その子どもたちの期待に応えるように、SPさんたちは笑顔満点で子どもたちを出迎えて、寄り添ってくれていました。



← “笑顔溢れるわく算”、今年も健在です。SPさんの笑顔が、子どもたちの笑顔を引き出します。
『まずは、この90分間を楽しくすること』わく算の一番の目標です。



↑この距離感、素晴らしい！たった90分間で、子どもたちと関係をつくっていきます。こんな経験、なかなかできません。あるウィークリーSPさんには、子どもが飛びついていていました。よっぽど会えたこと、わく算で自分を待っていてくれたことが嬉しかったのでしょう。普段の活動で相当な信頼関係をつくっているのだと感じる素敵な場面でした。



←高学年の男子児童が集まって、「こうじゃない?」「いや、こうでしょ」と言いながらプリントとにらめっこしていました。疲れてくる後半、一人で考えるのが難しくても友達と一緒に考えながら、話しながらならもう一度頑張れます。ふと見たら、少し離れた場所でシニア SP（卒業生）が微笑みながらその子どもたちの様子を見ていました。こうした姿を引き出せるのがシニア SP、現場の先生です。現場の先生の指導を間近で見られるのも、わく算のいいところの一つです。

ある大学2年生のSPさん。今回が初参加です。なかなか集中できない児童に苦戦していました。途中、「これはお土産用の問題にする!」と言って、持ち帰るための問題を選び始めました。（この時、終了までまだ残り40分ほど残っていました。）普通ならここで、「ダメダメ! まだ早いよ!」と言ってしまいそうな場面ですが、「そっか! これはお土産用にするんだね。印刷するね。じゃあ、今からはどれにする?」とすかさず返していました。その瞬間、ぐっと子どもがSPさんに寄っていき、問題を選び始めました。

この場面で、「だめ!」と否定していたら、きっとこの時点で子どもの心は離れてしまっていたでしょう。でも、否定せず認めてもらえたこと、諦めずに優しく関わり続けてもらえたことで、この子は最後まで算数の勉強をすることができました。「こんな返しが大学2年生からできるなんて、すごいセンス!」と驚きました。SPさんは苦労したと思いますが、こうした経験が必ず生きてきます。なかなか全ての場面を見ることはできませんが、きっと他の机でもSPさんは目の前の子どもたちが「何とか勉強できるように」「算数が楽しくなるように」「算数ができるようになるように」と工夫を凝らしてくれていると思います。みんな頭の中はフル回転! きっと、帰宅してから心地よい疲れを感じているのではないかと思います。

わく算は残り3日間。今日参加してくれたSPさん、まずはゆっくり休んでくださいね。（もちろん、クリスマスイブも楽しんで!）そして、明日からも体調に気をつけながら、そして子どもたちとの関わりを楽しみながら、活動してもらえたらと思います。明日も引き続き、よろしくお願いします。

